

鶴見区区政会議 平成27年度防犯・防災部会

1 日時

平成27年10月28日（水） 19時00分～

2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

宗宮部会長、山下副部会長、植田委員、田中（泰）委員、西田委員、西口委員

（区役所）

河村区長、萩副区長、濱口地域活動支援課長、秋山地域活動支援課長代理、

河本地域活動支援担当係長、小谷地域活動支援担当係長

4 議題

1. 平成28年度鶴見区運営方針の素案について

2. その他

5 議事

開会 19時00分

○濱口地域活動支援課長 定刻になりました。植田委員は、今日出席されるということ聞いておりますが、とりあえず定刻になりましたので、ただいまから鶴見区区政会議防犯・防災部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます地域活動支援課長の濱口でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは開会にあたりまして、河村区長からご挨拶申し上げます。

○河村区長 皆さん、こんばんは。

お忙しいところ、夜遅くの時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は防犯・防災部会の第1回の会合ということで、新メンバーとなってからの第1回の会合ということで、28年度の運営方針に向けて、またいろいろ皆様方のご意見をお伺いしたいと思っております。見知った顔の方ばかりなので、やりやすいというか、やりにくいというか、いろいろございますが、またひとつよろしく願いいたします。

○濱口地域活動支援課長 本日は、新たなメンバーによる初めての部会でございますので、委員の皆様から簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

お手元に委員名簿をお配りしておりますので、ご参照ください。

それでは、宗宮委員から。

○宗宮委員 榎本地域活動協議会のNPOの事務局長をやっております。民生委員・児童委員のほうもやらせていただいております宗宮と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○田中（泰）委員 茨田北地域活動協議会で副会長をさせていただいております田中泰子です。そして、女性会もさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

○西口委員 鶴見地域活動協議会 西口です。よろしく願いいたします。

○西田委員 皆さん、こんばんは。茨田南地域活動協議会の会長の西田と申します。また、鶴見区の地活の副会長ということで、今日は皆さんと同じように、防犯・防災の委員会ということでやらせていただいております。今後ともよろしく願いいたします。

○山下委員 こんばんは。茨田西地域活動協議会 山下と申します。地域では、防犯の支部長ということでいつもやらせてもらっています。よろしく願いいたします。

○濱口地域活動支援課長 ありがとうございます。

それでは続きまして、区役所側出席者の紹介をさせていただきます。

○河村区長 河村です。よろしく願いいたします。

○萩副区長 萩でございます。よろしくお願いいたします。

○濱口地域活動支援課長 地域活動支援課長 濱口です。よろしくお願いいたします。

○秋山地域活動支援課長代理 地域活動支援課長代理の秋山です。よろしくお願いいたします。

○河本地域活動支援担当係長 地域活動支援課の担当係長の河本です。よろしくお願いいたします。

○小谷地域活動支援担当係長 地域活動支援課の担当係長をしています小谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○濱口地域活動支援課長 以上でございます。

それでは次に、部会長、副部会長の選出に入っていきたいと思っております。

鶴見区区政会議運営要綱におきまして、部会長は区政会議委員の互選により選任すると規定されております。なお、部会長にはこの後の全体会で、部会における議論の内容をご報告いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

どなたに部会長をお願いするかについて、ご意見はございませんか。

○西田委員 それでは私のほうから部会長ということで推薦させていただく方がいますので、推薦したいと思います。

向かいの宗宮さんを私のほうから推薦したいと思います。といいますのは、宗宮さんは26年度・27年度もこども部会で私、一緒でしたので、私たまたまその部会の部会長をさせてもらったんですけども、活発にいろんなご意見を出していただいて、鶴見区に対しての考え方が非常に進歩的な考え方をしておられることがわかりました。

また、榎本で地域活動協議会、NPOの協議会の中でも中軸になる方で、いろんな形の中で頑張っておられるということは私はつくづく感じておりますし、まず、この場所におられる皆さん方も、多少なりとも知っておられると感じております。そういう意味では、うってつけの部会長になるんじゃないかということで、私は推薦したい

と思っておりますので、どうぞ皆さん方のご意見を聞いて、決めていただきたいと思いますので、私のほうから宗宮さんを推薦したいと思います。以上でございます。

○濱口地域活動支援課長　　ありがとうございました。宗宮委員というご意見がございましたが、いかがいたしましょうか。

（「異議なし」の声あり）

（拍手）

○濱口地域活動支援課長　　異議なしとのことでございますので、部会長は宗宮委員にご就任いただくということでよろしくお願いいたします。

　　続きまして、副部会長は部会長が指名することとなっておりますが、宗宮部会長、副部会長にはどなたをご指名されますでしょうか。

○宗宮部会長　　過分のご推薦をいただきまして、本当にありがとうございます。山下委員に副部会長をお願いできたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○濱口地域活動支援課長　　部会長より、山下委員のご指名がございました。山下委員、お願いできますでしょうか。

○山下委員　　はい、わかりました。

（拍手）

○濱口地域活動支援課長　　それでは、副部会長には山下委員にご就任いただくということで、よろしくお願いいたします。

　　部会長、副部会長には、前の席に移動をお願いいたします。

○宗宮部会長　　ただいま部会長に選任いただきました宗宮でございます。よろしくお願いいたします。

　　私自身が、この地域活動に関心を持ち出したのは、ちょうど阪神大震災を契機に、防災ということを考えてときに、地域の活動というのは非常に大事なんだということを非常に心強く思いまして、そういった取組みをしてきました。

　　榎本、放出の区画整理のほうで、放置自転車対策ということで12年前、13年ず

一っと取組みを続けているということで、地域の中でデビューさせていただいているということから、私自身、この区政会議の中で、どういったところでかかわりを持たさせていただくかということを考えていたんですけども、こういう防犯・防災の部会で仕事をしろと言われたことを本当に光栄に思っておりますし、私自身の関心と強く結びついていることですので、この場で頑張っていきたいと思っております。今、河村区長からありましたように、少人数でお顔も見知った関係ということですので、忌憚のない議論で盛り上げていただければと思いますので、皆さん方のご協力よろしくお願いいたします。

(拍手)

○山下副部長 山下です。改めましてよろしく申し上げます。

全て言っていただいたので、ついて行くだけなので頑張っってやっていきたいと思えます。よろしく申し上げます。

(拍手)

○濱口地域活動支援課長 ここで、ちょっと遅れて植田委員が駆けつけてくださいます、皆さん一通り初めての部会ということで自己紹介させていただいたので、一言お願いできますでしょうか。

○植田委員 すみません。梅田からバスに乗ってきたらちょっと遅れてしまいました。植田と申します。私も宗宮委員と一緒に榎本で、榎本の方がいっぱいこちらで活躍しているのがすごくうれしいなと思いつつも、私の住んでいるマンションが町内会に入っていないということを最近知りまして、私は町内会長を探して、自助・共助の何かあったときに助け合えるということを考えたときに、やっぱり地域に根差した生き方をしないといけない、先ほどおっしゃったような内容が必要だと私も思っております、今回この区政会議の公募があったので、私の思いを書かせていただいて、なぜかここに至っておりますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

(拍手)

○濱口地域活動支援課長 ありがとうございます。これからどうぞよろしくお願
いいたします。

それではこれより、議事進行を宗宮部会長にお願いしたいと思います。

なお、西田委員におかれましては、所用のためここで退席されます。皆様、ご了承
ください。

○西田委員 すみません、今日、町会長会議なんです。申しわけない。少し遅らせ
よということで来ましたので、すぐ帰ります。恐れ入ります。よろしくお願
いいたします。
次回からないように頑張りますので。

○濱口地域活動支援課長 それでは部会長、よろしくお願
いいたします。

○宗宮部会長 それでは、新メンバーでの初めての部会となりますので、改めてよ
ろしくお願
いいたします。

早速ですが、議題（１）平成２８年度鶴見区運営方針の素案について、事務局から
説明をお願いいたします。

○濱口地域活動支援課長 それでは、私のほうから資料１ 平成２８年度鶴見区運
営方針、右上に資料１と書いてあるペーパーに基づいて、ご説明させていただきます。

区の運営方針とは何かということですが、区における取組みの方針としま
して、毎年策定しているものです。

区の目標や担う役割、重点的に取り組む経営課題と、その課題解決のための戦略や
具体的取組、つまり、平成２８年度に鶴見区が何をしようとしているかを示したも
のでございます。

まず、鶴見区の目標ですが、区の魅力「つる魅力」の創造や多様な交流により、新
たなつながりが生まれ、区民がお互いに支え合い、誰もが「住んでよかった」と笑顔
で言えるまちの実現を目標といたしております。

次の区の使命、すなわちどのような役割を担うかについてでございますが、区民の
信頼に応え、暮らしを支えることなど４つの項目を使命といたしております。

次に 2 ページをご覧ください。

重点的に取り組む主な経営課題としまして、魅力あふれるまちづくりなど 6 つの柱立てをしており、それぞれに戦略を設けております。ここでは、経営課題 4 の安全なまちづくり、この課題が部会が所管するものとなっておりますので、具体的取組を中心に、3 ページ以降説明させていただきたいと思っております。

○秋山地域活動支援課長代理 そうしましたら、経営課題 4 安全なまちづくりをご覧くださいませでしょうか。

この安全なまちづくりにつきましては、大きく戦略は 2 点ございまして、1 点が街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり、もう 1 点が災害に強いまちづくりでございます。

1 点目の街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくりですが、めざす状態といたしましては、安全で住みやすいまちと感じている区民を増やすことを目標としております。

戦略といたしましては 3 点挙げておりますが、1 点目が鶴見区の街頭犯罪発生件数の減少に向けまして、区民、地域、関係機関が連携・協働いたしまして、区民の一層の防犯意識の向上につながるよう啓発活動を推進することとしております。

もう 1 点が、街頭犯罪の約 6 割を占めます自転車盗について重点的に取り組むとしております。

もう 1 点が、放置自転車も含めました自転車利用者のマナー向上をはじめといたしまして、広く交通ルールが守られるように、区内関係機関と連携しまして、交通安全の普及・啓発活動に取り組むこととしております。

次のページに具体的取組ということで挙げておりますけれども、まずはじめの 4-1-1 地域・関係機関と連携した防犯対策事業といたしまして、防犯カメラの設置をまず挙げさせていただいております。28 年度につきましては 30 台を予定しております。27 年度と比べまして、6 台増ベースということで考えております。

あと、次から書かせていただいていることにつきましては、すみません、後ろにパ

ワーポイントを用意させていただいておりますので、ちょっとそちらをご覧くださいと思います。具体の取組みの話をさせていただく前に、鶴見区の街頭犯罪の発生件数を挙げさせていただいております。

27年9月現在の街頭犯罪7手口の合計ですが、大阪市が1万8,866件で、そのうち鶴見区が641件となっております。前年度と比べましてはマイナス144件となっております、18.3%の減となっております。ちょっとご説明させていただくと、犯罪率のほうなんですけれども、ちょっと変わった数字となっておりますのは、この出し方が人口10万人当たりの認知件数に対して数字が出ておりますので、このような数字となっております。

今年度につきましてはこういう形で、今のところ大きく減少で動いております。具体に、ひったくり等の件数7手口なんですけれども、この中でちょっと見ていただきたいのが、一番右にあります自転車盗が、この街頭犯罪の中の約6割を占めておりまして、356件ということで、昨年比べては133件減少しておりますけれども、大きく街頭犯罪の中で件数として占めておりまして、重点的に取り組まなければいけない問題だと認識しております。

参考資料といたしまして、今年の1月からの各街頭犯罪の件数の移り変わりです。どれにつきましても横ばい状態という形になっておりますけれども、ちょっと9月でオートバイ盗や部品狙いなんかが増えてきておりますが、こういう形で動いております、鶴見区は例年なんですけれども、大阪市の中で大体、13位、14位ぐらいを推移しているというような状態となっております。

このような情勢を受けまして、28年度の取組みといたしましては、まず1点目が、鶴見区防犯の日一斉行動ということで、これまでもさせていただいておりますが、各地域に防犯推進委員さんという方がおられまして、その方と地域の関係機関がいろいろ協力をしていただきまして、月1回、第2金曜日に、小学校の下校時間に合わせまして、その各地域一帯を見守りさせていただいております。

あと、関係機関の連絡会ということで、1点目が安全なまちづくり推進協議会なんですけれども、区長が会長をしまして、警察、防犯協会、地域の各種団体に加えて、自転車商の組合ですとかイオンモールにも入っていただきまして、年1回ですけれども、防犯に関するいろんな情報の交換等をさせていただいております。

また、防犯推進委員の皆様にも集まっていただきまして、各地域3名おられるんですけれども、その方たちと区の防犯ライン、安全対策職員ですとか子どもの安全指導員が入りまして、情報共有をさせていただいております。

次に、鍵の取り付けキャンペーンということで、先ほど自転車盗が多いということで申し上げたんですけれども、その自転車盗の防止の一つといたしまして、鍵の2重ロック、2つ鍵をつけるというのが非常に効果があるということがわかっておりますので、その鍵の取り付けキャンペーンというのを毎月、各地域を回しましてやっております。そのときにワイヤー錠の取り付けと、ひったくり防止ということでカバーの取り付けもさせていただいております。大体毎月100人希望で取り付けを行ってきております。

次に、2重ロック、鍵を2つつける部分を特に強化ということで、27年から始めておりますけれども、毎月26日をツーロックの日ということで名づけてまして、のぼりを掲出させていただいたり、区役所前で、ティッシュに2重ロック推奨の啓発物を入れまして、来庁者に声をかけながら2重ロックの大切さというのを声かけさせていただいております。

あと、庁舎内のいろんな所に、ポスターというか、手づくりの物も取り付けをさせていただいて、大事ですよということで勧めさせていただいております。

あと、これは28年度新たに取り組もうとしておりますけれども、防犯標語コンクールということで、小・中学生の方を対象に実施を予定しておりますけれども、子どもさんのときに防犯について考えていただきながら、そのきっかけづくりということで、例えば夏休みの宿題等で取り組んでいただいて、その優秀賞というか、何点か選

んだものを、例えば左側はうちわなんですけれども、こういう形で防犯の標語を入れてまして、区民まつりで広く啓発を行っていったり、右はしおりになっておりますが、その他例えばのぼりですとか地下鉄の階段等、そういう目につく所にステッカーの形で貼りだしをしまして、区民の方に広く啓発をしていく上で活用させていただきたいと思っております。

あとこれは運営方針に具体的に載ってないですが、その他の区の実践ということで、区に安全対策職員というのがおりますけれども、毎日、青色防犯パトロールや自転車で区内を巡視しておりますし、防犯活動、犯罪情報等の広報活動ということで、左手にあります犯罪情報の掲示ですけれども、大阪府警のほうで「安まちメール」ということで、各地域でこういうような犯罪が起きてますよというような情報があるんですけれども、それをまた各地域にお伝えをしたり、区内や庁舎内の掲示板に掲示をしまして、区民の方にお知らせをさせていただいたり、あと右側は広報紙とかになってまいりますけれども、例えば、ひったくり防止のキャンペーンの告知ですとか、いろんな防犯に関する情報を発信してっております。

あと、これは本日ありましたが、鶴見区の子ども安全大会ということで、区内の幼稚園、保育所の子どもさんを対象にしまして、警察と共同で交通安全の啓発事業も行ってあります。防犯については以上となります。

○宗宮部会長 ちょっと課題がたくさんありますので、時間をそれぞれに区切って、質疑・応答という形でやらせていただけたらと思っております。

今ありました街頭犯罪、自転車盗が一番ということで説明がありましたけれども、質問等ありましたらお願いします。

あとでまとめて、またいただきますけれども、とりあえず今ご説明いただいた内容にかかわって何か。

なければ、自転車の盗難が一番多いということなんですけれども、被害に遭う自転車は放置自転車なのか、住宅にとめてある自転車なのか、いわゆる駐輪場にとめてい

る自転車なのかというようなことは、犯罪の被害者の情報としては、どういう状況かというのわかりますか。

○秋山地域活動支援課長代理 市民局のほうで、そちらについては毎月情報をいただいておりますけれども、必ずしも路上駐輪ではなくて、結構、駐輪場内というのもありまして、それが駐輪場にとめているので、例えば鍵のかけ忘れというものもあるかと思うんですけれども、半々と言ったら変ですけれども、駐輪場にとめているから少ないというような形では数字は実際挙がってきていません。

ただ、放置自転車というか、駅周辺はやはり多い傾向にはありますので、あと住宅地も多いので、路上も非常に大きいのかなあとは思っております。

○宗宮部会長 全地域で防犯の日の取組みもされているということなんですけれども、各地域の状況とかもあったら紹介していただいて、何か問題が出ているところがあるのであれば、ちょっと出していただいたらと思いますけれども、山下委員、何か。

○山下副部会長 すみません。今の話からちょっと外れるかもしれないですけども、データとしてお持ちの一番発生件数の少ない区というのはあるんでしょうか。

いわゆる安全な区ということですよ。その状況というか、環境とか、そういうことをまねをするというのか。

○植田委員 此花区が257件です。

○宗宮部会長 絶対数は少ないかな。

○山下副部会長 世帯数の問題ですかね。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね、ちょっと私が手持ちで持っていますのでいきますと、おっしゃるとおり、此花区が私の持っている数字、暫定値ですけれども257件ですね。やっぱり南ブロックも大きいです。繁華街を持っている北区とか中央区なんかは、非常にもう千何件という形で多いです。

○宗宮部会長 それは発生率では出てないですか。

○秋山地域活動支援課長代理 発生率に直しますと、北区の多い所でいくと1, 1

44という形で出ますし、此花区でいきますと392。

○宗宮部会長 鶴見区は五百何ぼって言ってたから、やっぱりかなり此花は安全。

○山下副部会長 安全と言えば安全という話やね。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね。この数字だけを見ると。

○山下副部会長 阿倍野区とかが出てくるのかなあと思ったりしたんですけれども。

○秋山地域活動支援課長代理 同じぐらいですね。

○山下副部会長 鶴見と一緒にということですか。

○秋山地域活動支援課長代理 近い数字ですね。

○山下副部会長 いわゆる安全だなあと感じる区民の割合が多い区というのも多分データとして、アンケートで出てくるかと思うんですけれども、その辺のところいろいろ突き合わせして、市民としてどこの地域が一番安全と感じている割合が高いのかという、要するに客観的に安全っぽい区というのは、ちょっとあぶり出せたら、その状況をまねをするというか、手本とするみたいなところの施策というのもありかなと思います。

また、自転車の盗難が多いというお話なんですけれども、これ多分、認知件数が増えているということだと思えます。要するに、申告されている方が増えてきたということもあるかと思うので。放置自転車の撤去を市とか区でやられているじゃないですか、あれが多くなってくると、当然、発生件数も少なくなってくるし、その辺のバランスもあるので、放置自転車のいうか、自転車の盗難にちょっと特化して防犯を取り組むというのは、すみません、一番最初のほうに戻ってもらったら、7手口あたりのあれ、ちょっと戻ってもらっていいですか。最初の1枚目か2枚目あたりだったと思うんですけれど。

やっぱり我々として、ひったくりとか路上というのが恐怖なんです。これが抑えられると安全・安心かなという感覚が強くなるかなと思うので、例えば自転車泥棒が減ったからといって、安全・安心なまちになったなあ、いや実は、遠く犯罪がそう

いうところから起こるので、芽を摘むという意味では、万引きの芽を摘むとか自転車泥棒の芽を摘むということは大事かなと思うんですけども、自転車に特化してというよりは、ひったくりとか路上を、かなり減っているので多分、青パトの効果とかあるかと思うんですけども、やっぱりその辺をしっかりとやっていただいたほうが、区民感覚としての安全対策をしっかりとされているという部分があるのかなあと。警察も区役所も、あっ、やってはるなという部分が出てくるんじゃないかとは思いますが。

極端な話、そこがゼロになるのがベースであって、まず、自転車泥棒がゼロになることはないと思いますし、やっぱり自転車を盗られるということは、盗られる人にも多少なりとも非はあると思うんですよ。その辺が2重ロック云々という話もさっき出てましたけれども、それを含めて、やばいほうの犯罪にちょっと目を向けていただいたほうが、何かやってもらってる感があるんじゃないかなと思います。

○西口委員 自転車が盗られるという件数がかなり多いのですが、捕まえた場合に、どういう目的が動機として多いのでしょうか。例えばひったくりにつながっているとか、路上強盗につながっているとか、そういうことは挙がってきてないのですか。

○秋山地域活動支援課長代理 ごめんなさい、そこまでの資料は。

○西口委員 関連性があることに関しては、例えばそのパーセンテージが増えれば、いわば自転車盗を徹底的にやれば、関連してそういうことが減ってくるのかなと。例えば、帰るのが邪魔くさいからそこら辺の自転車盗ったろうかなと足がわりにするとか、特にうちの町会では、ある所によると、いつの間にかそこが放置自転車のたまり場になっていると。そこら辺の方がよくやっておられるのかなということで、防犯に頼んで監視体制をとりましたけれども、結局はわからないと。自転車をどういう目的で盗っているのか、どうのこうのってわからないですが、そこら辺を調べてしまうと、ほかに関連しているものも出てくるんじゃないかなと。例えば自転車を盗って、路上強盗するなりひったくりするなり、そういうことがちょっとでも関連性があるんだしたら、同時にちょっとでもパーセンテージがほかのものも減ってくるんじゃないかな

と。確かに言われたように、ひったくりとか路上強盗は、オートバイ盗どうのこうの、あとの5件ですか、に比べたら確かに恐怖は伴いますよね。そこら辺をもし調べられたら。警察に聞いたらわかるとは思いますがね。

○宗宮部会長　　今の質問に対しては、ちょっと答えをお持ちでないということですね。

○秋山地域活動支援課長代理　　そうですね、申しわけないのですけれど。

○宗宮部会長　　続けて、植田委員。

○植田委員　　私も事前に、濱口さんとその話をしていてインターネットで出して調べていたんですけれども、自転車といったらそんなに大層な話になるわけではないので、それに力を入れるのはどうかなということと、今おっしゃったように、その自転車で何をしているのかということとか、今いい自転車が出ているので、それを転売したりしてお金にかえているのかとか、どういうふうになっているのかということがやっぱり大事で、そこがわからないと、区としての取組みにするのはどうなんだろうと私は思います。

○宗宮部会長　　自転車盗の内容をもう少し分析しなかったら、盗って単なる乗り逃げというか、乗り捨てというような形でやっているのか、部品を盗ろうとしているのかとか、その動機とかそのことが次の犯罪の呼び水になっているのかということも、単に数が多いからこれを何とかしましょうではなくて、もう少し分析が必要だというのが各委員から出ている内容、まさにそのとおりだと思いますので、そこらの中でどういうアプローチが必要なのかということをやったりしていかなかったらあかんのやろなと思います。

冒頭、今はそういう議論になってはいますが、区の言い方としては、特に自転車だけに特化したということでもないだろうと思うんですが、今言っているように、ひったくりとか路上強盗の件数からすると警察マターでよくて、自転車というのは市民ぐるみでの取組みということで言うと、我々の側から市民に呼びかける内容

としては、ひたたくりやめましょうじゃなくて、自転車盗に注意しましょうみたいなことが重点的になっていくというようなことなんだろうとは思いますが、犯罪の対応のありようとして、何が一番怖いのかといえば襲われるということだから、そのことからすると、自転車というような対応については、もう少し説明が必要なのと違うかということですよ。

確かに今、西口委員が聞いていたようなことは知りたいですよ。盗って何してるんやろという。

○秋山地域活動支援課長代理 何かいただける資料があるか、また調べてみます。

○宗宮部会長 分析は確かにちょっとしてみないとあきませんよね。

で、盗られたやつを警察が見つけたという段階で、見つけた対応はどうなっているかということですよ。

あと、いま自転車の話になっていますけれども、キャンペーンとか啓発とかいうふうなところでも、区の実践として出ていましたが、そのあたりはいかがですか。

標語の対応というのは、応募の件数はそれなりにあるのですか、夏休みの宿題に。

○秋山地域活動支援課長代理 一応、全校にお願いをしようと思っておりますので、一定あがってくると思っております。これからです。今度、28年度で取り組ませていただこうと思っております。

○宗宮部会長 スケアードストレート学習というスタントマンを活用した安全教室はテレビでも話題になっていて、非常に効果的だということでマスコミでも取り上げていますけれども、これが2回の実施ということですか。

○秋山地域活動支援課長代理 はい、まだご説明してなくて、今、防犯でとまってるので。

○宗宮部会長 1-1やね、ごめんなさい。そしたら1-1ということで話、僕が前へ行ってしまったんですけども、1-2について事務局のほうから説明を続けていただくということなのでやらせてもらってよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○宗宮部会長　それでは1－2をよろしく願いいたします。

○秋山地域活動支援課長代理　引き続きまして、後ろのほうに画面を用意しておりますが、交通事故の少ないまちづくりということで、交通安全対策事業のほうでご説明をさせていただきます。

交通事故防止や自転車マナーの向上の関係で言いますと、さまざまな年齢層に対しまして、それぞれの啓発活動というのが大事なのかなと思っております。

まず一つ目が、子育て層への交通安全教室ということで、各地域で行われておられます子育てサロンに出向かせていただいております、安全対策職員がわかりやすいアニメーション的なものをつくりまして、保護者の方に、子どもさんと一緒にいる保護者の立場でのマナーをお伝えさせていただいております。これも28年度、引き続き行う予定としております。

次に高齢者の方への交通安全研修ということで、取組み予定としては1回、秋の交通安全運動のときに行っておりますが、老人クラブ連合会員の方を対象に呼びかけをさせていただいております。また、高齢の方に向けて、例えばですが、若い方よりはこういうところがというような気をつけてほしいところを重点的に、警察の方に協力をいただきながら取組みをさせていただいております。高齢者のリーダーということでの育成と合わせまして、受けていただいた研修内容を各地域で、また広げていただきたいということでお願いをしております。

あと、園児への交通安全教室ということで、区内の保育園、幼稚園のほうに呼びかけをさせていただいております。大体、子どもさんが理解していただけるようになるのは3歳以上かなあということで取組みをしております。安全対策職員からビデオですとか、「つるりっぷ」も出向きまして、わかりやすい児童教室を開催させていただいております。

あと、自転車マナーアップキャンペーンということで、春と秋の交通安全週間のと

きになんですけれども、区内の高校3校、茨田高校や鶴見商業、汎愛高校の方も一緒になって、マナーアップのキャンペーンに取り組んでおります。

あと、スケアードストレート学習というのを26年度から実施をしているのですが、26年は1回だったんですが、今年は区政会議での意見も受けまして、一番交通マナーのほうがちよっと目につく高校のほうに、今回2校入らせていただくんですけども、28年度につきましても引き続き、残り1校と、あと全体的になるのか中学校に参加いただけるのかで調整をさせていただくんですが、2回、スタントマンを活用した、マナーを守らないとどうなるかというのを目で見て、体験してもらうという学習を実施予定しております。

あと、先ほどの防犯標語とも合わせてになりますけれども、交通安全につきましても絵画の募集をしようと思っておりまして、小・中学生の方にはいずれかということでも取り組んでいただきまして、またこれにつきましても、集まりました中の絵を啓発時に活用させていただこうと思っております。ちょっとここで例として挙げさせていただいているのは、以前、榎本の地域で取り組んでいただきましたものになりますけれども、放置自転車キャンペーンのときにティッシュを啓発物で配らせていただいておりますが、その中に絵を入れさせていただいたり、駐輪場近くの所に、もう少し大きい形で取りつけをしたりとか、そういうことでの啓発時に使わせていただこうと思っております。これは28年度、新たな取組みということになります。

あと、これも新たな取組みで、駐輪場マップの配布ということで、対象予定といたしましては鶴見区に転入された方になんですけれども、区内の駐輪場がわかるマップと合わせまして、自転車マナーの部分で自転車安全規則の5則が入ったものを一緒にお配りさせていただこうと思っております。

あと、資料としてはつけておりませんが、ご存じの方もおられるかもしれませんが、大阪市のほうで今、自転車の安全利用に関する条例を制定しようということで動いております。中身といたしましては、罰則規定というよりは、自転車安全利用について

の意識向上をめざしての教育に重点をおく予定で、教育を広めていける人材の育成ですとか、教育機会の拡大ということをめざした条例を制定する予定となっております。

背景といたしましては、高額な賠償責任が問われる事案も出てきておりますし、大阪市の場合、自転車事故自体は全体的に減少傾向にあります。全事故に占める自転車関連の割合が40%に達しております。全国平均が約19%ですので、非常に高水準であるということと、多くの自治体でもその動きがありますので、パブリックコメントもいたしまして、28年4月ごろに制定を予定しております。その条例が定まりましたら、また区役所として取り組むべきことが出てくるのかなと思っております。ですが、自転車安全教育人材育成事業ということで、サポーターズの育成ですとか、その条例の中のアイデアとしましては、保険加入の促進や事業所における安全教育なども盛り込まれるということ聞いております。交通安全につきましては以上となります。

○宗宮部会長 今、最後におっしゃった安全条例ですか、これを鶴見区としてこなしていくということで、細案みたいなのはまだこれからということなんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね、はい。

この間、粗でちょっと出たところですので、実際にその中で区役所として取り組める内容と取り組まなければいけないもの、あと大阪市として動いてもらわないといけないものが見えてくると思います。

○宗宮部会長 自転車マナーの向上をめざすということで、昨年までの全体の意見の中でも出ていたことだろうと思います。この自転車マナーの問題というのは非常に悩ましい問題で、解決していくのはなかなか難しい問題なんですけれども、子育て層とか高齢者、それぞれの世代に対して働きかけをしているということと、具体的な仕掛けとして、区役所としてグッズの作成ということで、今、提案があったと思いますけれども、この内容につきましてご質問、ご意見ありましたらお願いしたいと思います。

○西口委員 自転車は昨今、重大事故につながるものが物すごく増えていますよね。車の場合ですと、秋の交通安全運動とかが各小学校で開催されて、こういうことでビデオで紹介されて、皆さん講習受けてハンコをもらうような状態になっていますけれども、自転車に対しては今、まちまちな考え方があって、例えば歩道を通っていいのかとか、車道を通っていいのかとか、信号は守れとか、もうまちまちな考え方で、マナーという以前のモラルの問題も問われているような状態の中で、年に何回か小学校でやるとか、中学校でやるとか、自転車の基本的な乗り方、こういうときにはこうしてくださいとか、そういうことをもっと皆さんに教えていただくような形での作戦を組んでいただきたいなと思うんですけどね。これは老若男女問わず。だから、鶴見区ではこういうことを、どこどこではこういうことをやっています、まあいろいろやっていますということになっておりますけれども、実際は、スタントマンを使ってということも、私、今日初めて聞きましたし、それが実際、周知・徹底されてるのかどうかもちょっと疑問かなと正直思っております。ですから、もっと身近な形で老若男女問わず、防災訓練のような形で皆さんに募集して、自転車の基本的な乗り方、こういうときにはこうするんですよ、ああいうときにはこうするんですよということで、皆さんに知っていただくような形で開いていただきたいと思うんです。

そのときに、こういう保険もありますよとか、これだけ払えばこれだけ補償してくれますよとか、自分が起こさなくても起こされる、また逆に、起こしてしまうかもしれない、そういうときにはこういうことがありますよということも紹介していただけたらなと。私ども実はこの間、ちょっと保険屋さんに行ったら、かなり安くて高額な保険に入りました。やっぱり民間の力を利用しながら、そういう紹介の窓口もつくっていただけたらなと思います。

○宗宮部会長 もう少し身近な生活の中に、マナーキャンペーンが届きやすいような取組みということで、お年寄りとか幼児というポイントの絞り方よりも、そのことが大事なのと違うかというご意見だと思います。

ほかの方、いかがですか。

○田中（泰）委員 自転車のマナーというのは本当に常識的なことですよね。信号守らないといけないとか、乗りながらスマホ、あれびっくりしますよね、乗ってて後ろで声がする。本当に常識的なことだから、どうしたらいいのかな。やはり、小さいときからの教育ですかね。そこら辺からやればいいのかなという気はするのですけれど。信号無視は絶対いけませんよね、私も反省していますけどね。信号渡ったらすぐそこが家ですので、つい黄色でも行っちゃおうとか。このごろやめてます、罰金です。だから、そういうふうな問題じゃないかなと思うんです。

○宗宮部会長 法律が変わったということで、車道、歩道の関係とか、さすべえがどういうふうに決着するのかとか、いろいろ自転車をめぐる法的な状況も変化しつつある中で、自転車の安全とか事故に対してどう対応していけるのかということを実施として持たなあかんというのは、ほんまにそのとおりだと思います。

どうなんですか、この子育て層、子どもに対する働きかけをしていくというのは。マナーというのは、大人で時間もなくて便利やと、ちょっと要領かましてしまうというんですか、要領よくやろうとすれば、そういったことを切り捨てていくという、そういう都合を優先させていくというところで、マナーが忘れ去られていくような状況に対して、マナーを守りましょうとしても、なかなか通らないということがやっぱりありますよね。その中で、子どもを軸に、子どもから指摘されると親も聞かざるを得ないというか、子どもをきちっと指導していくということが、二重の意味で効果的だということは確かにあると思うんですよね。茨田北のほうへ勤めに行っていたり横堤にいたりすると、高校生の自転車軍団の恐ろしさというのは、経験した者でないとわからないぐらい恐ろしいですよ。

○田中（泰）委員 夕方は買い物に行かないことにしております。

○宗宮部会長 そこをピンポイントでスケアードストレートの学習を持ち込んでいると初めて聞いて、ああそれは絶対、高校生にとってみたら新鮮な受けとめ方があつ

たん違うかなと、物すごく効果的だったのではないかなと思いますね。

○秋山地域活動支援課長代理 小学校で言いますと、土曜授業で何地域か、交通安全で入らせていただけていることもあったりするんです。全部となると、なかなか今まだ入れてはないのですけれども、そこは警察にも協力を得ながら、どのような形で地域というか、広くやっていけるのかというのはまた。

○宗宮部会長 警察の交通安全教育のほうは、かなり熱心にしていただいているみたいですが、必ずしも自転車が入っているわけではないですよ。

それと、小学校に来る警察の教室の中では、夜間の無灯火は対象にならないですよ。塾帰りの子どもが、夜中に無灯火で向こうから突っ走って来るのではとしたことは、家の近所でもしょっちゅうあるんですけれども、自分が見えているからいいわということで、相手から認識してもらえていないことがわからないのでしょうか。

○山下副部会長 ちょぼの二つ目に、高齢者への交通安全研修の実施が1回と挙げられているんですけれども、多分、高齢者は事故に巻き込まれる可能性が高い中で、この1回というのはちょっと少ないんじゃないかなというのと、研修会という座学みたいな感じですね、これは内容的にどうなのかなというのがあります。やっぱり体験するということが大事だし、事故のことを振り返って考えると、夕暮れどきというキーワードも出てくるかと思うので、できたらその夕暮れどきに、実際、外で自転車に乗せて、ほらほら暗いでしょ、見えないでしょ、危ないでしょということを経験させるぐらいでないと、高齢者に対する交通安全教育のインパクトはちょっとないんじゃないかな。だから、時間帯ですよ。10時からやりましょうとか1時からやりましょうとか、すごく短絡的に決まってる部分が多いと思うんですけれども、やっぱりその内容的な意味合いを考えたら、例えば夕方の4時に、今の季節だったら4時、5時でも暗くなってくるし、夏場だったら7時ぐらいですかね、暗くなり始めるのは。そういう時間帯に交通安全教室を実施することの意味合いというのも多少あるんじゃないかなと思う。それで、集まりやすい時間帯というのはかぶってくるでしょうね。

夜間の交通安全教室体験版みたいなものがあれば、おもしろいとはちょっと違いますけれど、そういう可能性を探るのも一つかなと思います。

それと、スケアードストレート学習は、これも非常にインパクトがあって効果は絶大だと思うので、学校関係の閉じたところでやるのはもったいないと思うんです。物すごくいっぱいの人が見られる場で、鶴見区でと考えると、やっぱり区民まつりなんかで場所が取れてできたりすると、よりたくさんの人にインパクトを与えられるのかなと。まつりで浮かれているだけでなく、学ぶところは学んで帰るという必要性とかあったらいいと思うんです。場所の問題とかいろいろあると思いますが、それはクリアしていく努力をしてでも、やっぱりたくさんの人が見る、経験する、体験するという方向性でいっていただけたらいいのかなと思います。

やっぱり、さっきもちょっと話が出ましたが、自転車は本来車両なので車道を走らないといけない、という前提論をもっと徹底したほうがいいのかなとは思いますがね。歩道を走らせていただいていますというようなことですよね。この大前提がひょっとしたら忘れ去られているのかなと思います。と言いながら、僕自身もやっぱり自分の安全を考えると歩道を走るんですけども、その前提として、自転車は歩道を走らせていただいているんですよというところの認知度を上げることは必要なのかなと思います。後ろから下手すりゃチリンチリンとやられますから、それでちょっとよけたら、さあ一っと危ないぐらいのスピードで走って行きますから、やっぱりその辺を振り返って、車両なので自転車は歩道を走らせていただいているんですよということの認知度を上げることは大事かなと思います。以上です。

○宗宮部会長 鶴見区内の自転車道の整備場所はどの程度あるのですか。

○河村区長 車道にある自転車道というのはゼロですね。本町でとかでしたらあります。

○宗宮部会長 歩道の自転車通行帯だけ。

○河村区長 通行帯があるのはあります。

○宗宮部会長　ただ、今言っているように、歩道では強者ですけど、車道では弱者ですからね、やっぱり危ないと思ったら歩道にあがってしまうというのがあって、車道を走ろうとすると、怖い目に合うというのが自転車ですよね。今、山下委員が言われていることもそのとおりなんですけれども、それをやっていく上では、自転車の利便性が図れるという施策と同時にしていかなかったら、自転車を乗りやすくするだけになってしまうというのは逆効果になっていくだろうと思いますしね。

○山下副部会長　大きな歩道に、何かラインが入っていませんでしたか。

○宗宮部会長　大きな歩道は入っているんですよ。だから自転車の通行帯というのはあるんですよ。

○山下副部会長　歩道の中の自転車の通行帯なんですね。車道の中の自転車の通行帯というのはない。

○河村区長　車道の中は、自転車専用道という形で、別途になります。ただそれは、道幅の問題とかいろいろな制約が出てくるんですけどね。

○山下副部会長　何か難しいですね。やっぱり若い子とか、車道を走れるような体力、知力、マナー、常識のある人は、極力車道を走ってよと。そうするとやっぱり、歩道を走っているいわゆる自転車弱者というんですかね、自転車に乗っている弱者というのもいらっしゃるだろうし、当然、ちっちゃい子どもでも、本来はこっちなんだけれども、こっちを走らせてもらっているんだよという認識を持ちやすいかなとも思うので、その辺の取組みがうまくできれば。これは役所だけの問題ではないと思います。当然警察もそうだし、住民もそうだし、学校もそうだし。

○宗宮部会長　ある種、過渡期ではあるのだろうとは思いますがね。車道を走れということを基本、原則にして、車両といえば一方通行守らないといけないとか、必ず左側を走らないといけないというのは当たり前のことなんですけれども、今は車道の中で逆行して非常に危険な自転車がありますものね。

それで、警察が厳しく取り締まりをしているのかといたら、まだそうでもないん

ですよ。

○田中（泰）委員　　ちょっと話が外れるかもしれないのですが、私たち種花事業のお手伝いをさせていただいてまして、私たちの地域から榎本の花づくり広場へ行くのが大分遠いんですね。それとすごく危ないんです。怖いんです、実際ね、歩道を走ってます。でも、今津の橋ありますよね、あそこを越えるのがすごく怖くて。今、種花事業も、花づくり広場ともう一つ、鶴見緑地のほうにつくってはどうかという話があって、もうそうしていただけたら私たちすごくうれしいのですが、とにかく危ないんです、歩道を走っていても。

だから、ちょっとここで予算がありましたら、緑地のほうに分けて花づくり広場をしていただきたいなど。ちょっと関係なかったんですけど。

○河村区長　　それはその方向で考えさせていただきます。

○田中（泰）委員　　よろしく願いいたします。

○宗宮部会長　　種花事業でその方向ということは別の話としてオーケーなんですけれど、茨田北と榎本の関係で、自転車が通りやすいようにしてもらいたい、安全を確保してもらいたいというのは、赤バスの件もありますからというようなわけですよ。

○田中（泰）委員　　榎本さんも遠いですよ。区役所まででもね。大変やと思います。

○宗宮部会長　　あとですね、この駐輪場マップ、非常にいいのをつくっていただいて、これは今、放出駅前配布する啓発のときにも活用させていただいているという状況なんですけれども、区が発行するということはどうしても仕方がないのかなとか思いながら、民間の駐輪場が入っていないんですよ。

○秋山地域活動支援課長代理　　今、入れてないですね。

○宗宮部会長　　民間の駐輪場も、榎本、放出の取組みの中では、地域が立ち上がる中で意欲を持った方が、それだったら駐輪場で応えましょうということで、駐輪場を始めてくれたという経緯もあって、その駐輪場はこういう地図をつくる時には絶

対入れるんですよね。

そこは、もともと駐輪場としてあったところではなくて、放出駅前の駐輪場対策の中で、意欲を持って、その対策に乗り出してくれたというようなこともあったので、必ずしも民間の事業者がお金もうけのためだけにやっておられるわけではないので、一方で公営の駐輪場の周知をするのであれば、そういうところにもウイングを広げていくということは、確かに難しい問題ではあるだろうなど。

○秋山地域活動支援課長代理 中ではそういう話もちよっとしていたりもしまして、逆に載せるとなると、一定ちゃんと載せないといけないというのもありましてね。

○宗宮部会長 あそこが載ってここが載らないとかいうかんじでね。

○秋山地域活動支援課長代理 そうなんです。公募というか、呼びかけたらいいのだろうかとか、ちょっと今、中では話しているところなんです。

○宗宮部会長 実際、放出でやっているときも、そこを載せるのだったら、民間だからうちも載せてくれということで載せるようになったというの、現実にありますね。

ただ、利用者にとってみたら、別に公営、私営関係なく、駐輪場がどこにあるかという情報が欲しいわけですから、載せるほうが利用者にとっては利点が大きいだろうという判断で、民間の事業者も当然載せていくべきだということで、地域では載せているんですけれどもね。

それと、絵のほうは、駅前に工営所が歩道に絵を拡大して張ってくれたり、ティッシュとしてまくと、これ僕が書いた絵やねんと言いつけてますからね。そういう意味で言えば、あれは物すごく効果的だと思います。

○山下副部会長 駐輪場組合みたいなのはないのですか。駐車場組合はあるじゃないですか。

○宗宮部会長 なるほどね。

○河村区長 あまり聞かないです。

○山下副部長 聞かないですね。組織化すればそこに流せばいいだけで、おりていくんでしょうけれど。

○秋山地域活動支援課長代理 ちょっと聞いてないですね。

○山下副部長 つくっちゃいますか。

○宗宮部長 1件は元パチンコ屋なので、かなりの収容台数があるんですけど、もう1件うちも載せてくれといわれているところは、ほんまに玄関の軒先みたいところでやってらっしゃるところなので、それほどの収容台数は実際にはないんですね。

○秋山地域活動支援課長代理 おっしゃっている元パチンコ屋さんは、月極め以外にもされているのですか。

○宗宮部長 はい、やっています。

○秋山地域活動支援課長代理 そうなんですか。

○宗宮部長 むしろ30分以内無料にしてくれています。

○秋山地域活動支援課長代理 そうなんですか。なかなかそういう情報、ごめんなさい、私も勉強不足で。そういうことなんですね。

○宗宮部長 ご自身も駅前で営業されていて、駐輪対策に協力してもらいたいといううちの働きかけの中で、それだったら一念発起やるわということでやってくださっています。

○山下副部長 ぜひ載せてあげていただきたいですね。全然関係のない地域の間からしても、その感覚で捉えて。

○宗宮部長 やっぱり載せてあげたほうがいいんだろうなとは思いますが、やっぱり利便性ですね。使う人マターで物事を考えないといけないと思うので、もし、100%区役所で載せにくいということであれば、地域におろしてもらったら、お金の出どころは区役所ということでの表示プラス地域がかんでいるということ、そういうところも載せやすいということがあるのでしたら、そういう手法も考えていただ

いたらいいかなとも思います。

うちは放置自転車対策委員会ですから、対策委員会として、駐輪場のありかを自前で調べてきたのを載せてますよということだったら別に問題ないだろうということな
んですよね。

ちょっと部会長、前に座ってしゃべり過ぎやなと今思いました。すみません。

続けてもう一つあると思いますので。

○河村区長 1点だけちょっと。

今日、僕、先ほども紹介があった子ども安全大会に行ってきましたね。区内の保育園、幼稚園の5歳児約800人が一堂に集まって、そこで警察の方からまず安全の問題、それと交通安全の問題、それと知らんおっちゃんについていったらあかんよみたいな防犯的な問題の話をしてもらって、幼稚園の子どもはすごくものがわかっていて、知らんおっちゃんについていったらあかんとか、信号黄色になったら渡ったらあかんとか、急に飛び出したらあかん、皆わかっているんですよ。

それを質問しても、皆声に出して一斉に言ってくれる。そんな感じですずっと小学校、中学校と上がっていったら、全然何も問題のないまちになるんだろうなと思うのですが、やっぱりどこかでマナーが悪くなる場所があるのだろうと思って、それが小学校での取組みなのか、中学校での取組みなのかというのがそれぞれあって、おっしゃっていたように、マナーを守るといってもすき間ね、無灯火で走るとか、ちょっとずつそういうところが欠けていくのだろうなと思うので、それをどう補っていくかというのが大事かなと思いました。

だから、小学校でも、交通安全のマナー教室みたいなものがどのようにされているのかというのを僕らもリサーチして、そのすき間を埋められるように、タイアップしてできるようにやっていけたらと思いました。

それと、ちょっと話が戻りますけれども、防犯の話で言うと、西口委員もおっしゃったように、自転車泥棒にしても、その目的なり原因が何かというのを十分追求して

いかないと、根本的な解決にならないだろうなと思うんですけども、今回、街頭犯罪をなくしていこうという中で、特に自転車盗が全体の6割を占めるという状況の中で、まず自転車盗から取組みましょうかと。自転車盗というのは、啓発などによってある程度カバーできる部分があるのであろう。なので必ずしも、ひったくりとかそういうものはしないでこれだけはやろうというわけではなくて、もちろんひったくりについても、ご存じのように青パトで気いつけやと回っていますし、荷物持つときは道路の反対側に持ちやみたいな、そういう啓発はもちろんやっているのですけれども、まず自転車盗は数が多いということと、手軽にと言ったらおかしいですけども、そういう啓発ツールが多いということと、オール大阪での取組みとして、まず自転車盗を減らしていこうということで、その数値目標も各区で立てなさいというようになっている中で、これを項目として挙げたということなので、何もほかのことはもうやりませんということではないので、それだけちょっと言うところかなと思います。

○宗宮部会長 厳罰化とかいうことで、警察の取り締まりとか、そういう必要性というのは十分認識した上ですけども、罰則化とか抑制することによって減らしていくというのは、やっぱりどうしたって限界があって、ゼロにはなりませんからね。今おっしゃっていたような幼稚園児に、我々自身が見習って、どこが問題なのかというのが、確かに僕ら自身が見つけていかなければならない課題やなというふうな感じがしますね。

○山下副部会長 いや家庭ですね。お家で教育されるのでね。

僕らもたまに見受けるのは、親がすうっと行って、子どもが、お母さん赤信号渡ったらあかんやんかと言ってる姿ですよ。そこでしょうね。だからやっぱり、忙しいとか急いでいるとかそういうところで、親を教育していかないといけないんでしょうけどね。

そういう意味で、子育て層への安全教室と書いてありますけれども、子育て層の親へのとか。

○宗宮部会長 親子でということになると、就学前ということになりますよね。

○山下副部会長 ということになってくるのかなと思いますね。やっぱり親が見本見せるというのが、多分大前提かなと思いますよね。

○植田委員 ちょうど親のところで、ちょっと外れるんですけども、児童虐待というのも、やっぱり防犯で何とかカバーできないかなということで、平成21年に鶴見で164件、22年で152件、23年に150件、24年に114件、25年に111件、それで、高齢者の虐待は、21年に45件、22年に45件、23年に35件、24年にこれも35件かな、それで、25年に44件あって、そういうあたりは防犯という部分ではカバーできないんですかね。

○宗宮部会長 高齢者虐待、私も民生やっていますからよく聞くのですが、鶴見区は比較的高いんですよね。息子による虐待がその中でもとりわけ多いというふうなことは聞いたりするんですけども、防犯と言う前に、福祉施策の穴というようなこととしてまず捉えたところから出発しないといけないのかなとは思いますがね。

この安全・安心の中で、安全が阻害されているという中身についてはそのとおりなので、今、植田委員がおっしゃった内容についても、テーマとして検討していくということではしていきたいと思います。

それと、今日の議論の中で、いきなりどういった内容で答えていけるのかということでもないかと思しますので、児童虐待や高齢者虐待といった問題についても、安心・安全の観点から捉えていくというふうな扱いということではよろしいですか、はい。

それでは、ちょっと時間もありますので、次の提案を受けていきたいと思えます。

○秋山地域活動支援課長代理 そうしましたら、資料1の13ページをご覧ください。

経営課題4の安全なまちづくりの中で、次の戦略になりますが、災害に強いまちづくりということで、めざす状態といたしましては、地震・風水害等の災害に対して、区全体の危機管理対応能力が向上していると感じる区民の割合を増やすとしておりま

す。

戦略としましては3点挙げておりますけれども、区民、地域、区役所、関係機関、学校等が連携をした訓練を通じまして区全体の危機管理対応能力を向上させる。もう1点が、地域の自主防災力の強化とそのためへの支援を行う。もう1点が、地域コミュニティの活性化を図り、自主防災組織による自助・共助の視点を盛り込んだ防災活動が活発に行われるための仕組みづくり、支援を行うとしております。

具体的取組みですが、またすみません、後ろのパワーポイントのほうをご覧ください。

まず、1点目ですけれども、地域の自主防災力強化ということで、例としては、避難所開設運営訓練ですが、全12地域で実施してまいりたいと思っております。この中では、例として、写真では避難者の受付などをしておりますけれども、実際に避難所となります小学校を使いまして、避難者の受付ですとかそこまでの避難誘導の訓練などを地域主導で行っていただいておりますが、そこへの支援、助言ということでやっていきたいと思っております。

また、体験ブースということで、区役所のほうでも平成27年度でいきますと、水圧ドアの体験ですとか、そういうことでブースも持たせていただいて、災害に対する啓発も行っております。

次に、区の震災訓練になりますが、内容は2本立てになっておりまして、1点、その左手がつるみんなピックということで、各地域におきまして防災リーダーがおられますが、今、鶴見区に330人ほどおられまして、その方たちに消防などの指導を受けて、技術をいろいろ学んでいただいているんですけれども、そちらの技術を競技会形式で競っていただくというような中身をやっております。

あわせまして安全・安心フェスタということで、区民の方の参加体験型のものになりますが、警察や消防署、関係機関が入りまして、防災だけでなく、防犯、交通安全などひろく内容を盛り込みました安全・安心フェスタを、平成28年度につきまして

は10月ごろ開催を予定しております。

あと、防災学習会の開催ということで、小・中学校を対象に実施していきたいと思っております。小学校では既に土曜授業の中で、地域と連携をいたしまして実施をさせていただいているものもございます。例えばですが、平成27年度におきましては茨田南地域で、震災のメカニズムをわかりやすく、パワーポイントをつくりまして子どもさんに見ていただいたり、AEDの簡易なものですけれども、体験をしてもらうようなことで、地域防災リーダーの方から子どもたちに授業をやっていただくというようなものもしておりますし、緑地域におかれましては、ジュニア防災リーダーということで、高学年の方になりますが、宿泊も含めまして、消防署も入ったりしまして、技術指導なども受けていただくようなものもされております。そういうところへの支援をさせていただいております。

それに加えまして、平成28年度につきましては、教育のほうになりますけれども、いわゆる防災・減災カリキュラムということで、子どもさんには授業の中で、いろんな防災・減災にかかわる取組みをとということで教育委員会から出されている部分がありますので、今までちょっと入れてないんですけれども、中学校にもぜひこういう学習会、訓練等、区役所で支援をしていきたいということで、呼びかけをさせていただいております。

以上ですが、ここに挙げさせていただいてはないのですが、そのほか区役所といたしまして、各地域の要望によって、いろんな出前講座的なこともさせていただいております。平成27年度でいくと、横堤ですと3回に分けてまして、例えばですが、高層住宅に住む地域の防災・減災にどういうことをしたらいいのかとか、戸建て住宅でいうと、どういうことに気をつければいいかというのもしておりますし、介護保険事業者が主催をされまして、水害対策についての研修会に入らせていただいたりもしております。

以上です。

○宗宮部会長 安全なまちづくりの中で、災害に強いまちづくりということで、12校区が全部で防災訓練を実施しているということ言えば、鶴見区の実績は全体としてはかなり進んでいるのかなとも思うのですが、今説明のあった内容につきまして、ご質問・ご意見よろしく申し上げます。

○植田委員 2月に水害ハザードマップ鶴見区というのを出されていると思うんですけども、先日、北区役所にちょっと用事があって行ったときに、自分のところのビルをそういうときに使っていいですよというような。鶴見区なのでそんなに水害はないだろうとは思いますが、榎本のほうには寝屋川と第二寝屋川がありまして、また、離れたところに淀川もありますので、もし水害が起きたときに、ただ単に避難所というので平らなところに避難したとしても、それは水に浸かってしまうと思うんです。

なので、そういうところではなくて、きちんと逃げていいんだというようなそういう姿勢とかは区ではあるんですかね。

○秋山地域活動支援課長代理 大阪市の取組みの中で、まず市営住宅と住宅供給公社の関係につきましては、津波避難時の対応ということで協定を結ばせていただいています。あとは区役所独自でいうと、まだそんなに積極的にはちょっと取り組めてはいませんが、各地域のほうで独自に締結もされたりということは聞いております。

○濱口地域活動支援課長 12地域たまたまといいますか、全ての地域に公営住宅がありますので、これで事足りると思っていまいませんけれども、とりあえず市営住宅、府営住宅も今、市営住宅になっていますので、そこで水害時の避難ビルという指定はされています。

○山下副部会長 ちなみに私、茨田西なんですけれども、11月15日だったかな、今度、避難所開設訓練、防災訓練をするんですけども、垂直避難という項目がちゃんと設定されていまして、戸建ての方が実際に市営住宅の3階以上に避難するという

訓練を実施します。水害時避難ビルという表示もちゃんとされていますので、少なくとも西地域に関しては、その辺はできているかなとは思いますがね。

○宗宮部会長 榎本では、市住の周辺の町会はこの11月1日に訓練するんですけども、町会対策本部を集合した後、そこへ寄って、避難所の榎本小学校へ行くというような訓練を、もう既に3年ぐらい前からやっていたり、民間マンションと協定結んでいるところも町会によってあるんですが、一番狭い、消防車が入れないようなところの町会については、コーセツの駐車場にまず上がってもらいますよというところで、民間同士の話ということで進んでいるのですが、この取組みを進めていく上にあたって、上町台地よりも西側のところでは行政も町会も熱心で、かなり進んでいるというお話なんですけれども、東のほうはなかなか進まないということで、大阪市の状況をお聞きしてたんですが、と言いながら、この間、集中豪雨とか台風で古川がもう超えるんじゃないかというようなことがあったり、すごいときには放出駅の古大和橋が、もう橋のところぎりぎりまで水位が上がっているのも時々見ますので、洪水に至らないまでも水害が起こらないということはないので、やっぱりそういったことは身近な問題として、大阪の上町台地から西側でできているわけですから、東側の低湿地帯であった鶴見区では必要な取組みではないかなとは思いますがね。

○萩副区長 もともと避難ビルのときは、津波なんですね。津波避難ビルというのが注目されまして、そこで湾岸5区はハザードマップをつくって、そのときに備えているんですけどね。

ですから、川があふれて、床下浸水程度の想定はしてないんです。だからそれでおくられているという現実はあるんですけども、必要な対策ですので、これから頑張っていきたいと思います。

○植田委員 やっぱりこれしか知らない人が多いので、さっき見せていただいた水害のときの避難場所はここなんだというようなのが、鶴見区ではちょっとあまり見ないなど。どうですか、少ないですか、多いですか。

○山下副部長 　でも、これがついたのが、ここ一、二年かな。

○植田委員 　一、二年。なので、それは区民の皆さん、あまり知らないんじゃないかな。

○山下副部長 　そうですね。極端な話、防災訓練に参加してない人は知らないという、すごく誤った状況になっていますよね。やっぱり、意識のある人は参加して、そういう情報はちゃんと捉えていて、自分で自分を守る気持ちも行動もできるのかなと思いますけれども、意識のない人は、そういう訓練に参加しない、何も情報がないという危険性がありますね。だから、そこをどう掘り起こしていくかというところが課題になるかなとは思いますが、震災訓練、防災訓練というのは、やっぱり地活でやっているという意味合いがあるのであって、全員参加が基本かなとは思いますが、なかなか掘り起こせないというのは、地域の実情としてはありますね。

すみません、ものついでにちょっと言わせてもらいますと、区のほうで対策本部を立ち上げられるかと思うのですが、1.17か9.11かどっちかそういう絡みでやっている区の対策本部と、地域の避難所の本部との連絡の訓練とかは実施されてますか。

○宗宮部長 　うちが防災訓練を11月1日にやるときには、区との防災無線でのやりとりは必ずするというので、今回もそれをやる準備を1日にやりますけれども。

○小谷地域活動支援担当係長 　今、地域で訓練されているときに、区役所の職員とさっき宗宮部長がおっしゃっておられました地域との無線の訓練もやっていますし、今年度は新たに、私ども防災担当以外で、収容避難所に派遣される職員も出勤してきて、地域との無線の訓練や、実際に学校に行って、備蓄倉庫の中の確認をするとか、そういった訓練も今年度から取り入れてやっております。

○山下副部長 　ただ、12地域で同時多発ですよね。これを想定した訓練もやっぱり必要になってくるかなと思いますね。無線というのは、やっぱり混信とかあるでしょうし、誰がどこで何をどうしゃべっているのか聞き取りにくいので、今のところ、

多分SNSが一番いいと言われているかと思うんですけども、その辺に対する対策も早いうちにしておいたほうがいいのかなと。やっぱり文字というのが確かだと思うので、言葉よりは文字かなと思うので、できたらその辺にかかわる対策をしておいたほうがいいのかなと思います。

○河本地域活動支援担当係長　　今、無線機にもメール機能がついているんです。なので、あれでやりとりは可能なんですよね。

○山下副部長　　文字でのやりとり。

○河本地域活動支援担当係長　　文字でやりとりを、あの無線機できますので。

○山下副部長　　でも本当はキーボードの方が。

○河本地域活動支援担当係長　　それはそのほうがたくさん文字も打ちやすい。

○山下副部長　　文字も打てるし早い。

○河本地域活動支援担当係長　　文字も打てるし早いし。

○山下副部長　　それはそうですね。

○河本地域活動支援担当係長　　画面も大きいですしね。

○西口委員　　阪神大震災以降の防災リーダーの1期生、今もずっとやっておりますけれども、先ほど言われましたような形で、メールも打てますし、それから無線に関しては、特殊チャンネルを使って毎回練習もしていますし、昔の訓練よりも今はもうかなり、今に応じた形で、AEDを使ったりとか可搬消防ポンプをつかったりとかロープ結索とか、その他いろいろかなり進んでいる要素が高い状態です。

ただ残念なことに、私は若いとは言いませんが、私よりも年上の方がかなり増えてきたので、そこら辺もやっぱり地域の方が皆さん伝達できるような若い方に、次頼むでという形のものをとっていかなければいけないと、鶴見では思っております。ほかの地域もそうだと思うんですけども、訓練内容に関しては、毎年毎年かなり変わってきていますし、また今度、つるみんピックが行われるんですけども、かなり実力が確かめられるような訓練になっていますので、その点は、いつも同じ訓練じゃなく

て、やっぱり同じ人がやるのではなくて、違う人がたまに出てきてほしいなと思っています。これは今後、12連合さんのいわば課題だと思うのですが、メンバーが入れかわった状態で、どんどん増えていってほしいなと思っています。

○宗宮部会長　榎本の訓練では、マーリングリストの活用ということで、マーリングリストに登録してくださいということでやっていて、実際、当日、町会と榎本小学校との間をマーリングリストでやりとりをするというのもやっているんですけども、それと同時に、区が配給してくれているんですかね、トランシーバーがあるんですが、あれはおもちゃみたいな距離しか飛ばない、見えるところでしか飛ばないというような道具で、これはもう使い物にならないということで、しばらく使っていなかったんですが、もったいないから、リレーでどこまでつなげるかというのを昨年の防災訓練、夜間訓練のときにしました。

中継を持っていったら、榎本小学校から放出の駅まで2カ所の中継で届くということが分かったので、それまで全くだめやと言ってましたが、使い方によっては何とかなるやんというふうな言い方をしたんですけど、その中継をするにはある程度技術が必要で、ちょっと動かしてしまうと、本部でしょっちゅう行方不明になるんですね。

そういう訓練も本当にしなければならぬのと、ちょっと地活厳しかったんですが、性能のいいトランシーバーを4台買いました。結構高いんですね。今、防災であれば、免許についても基地局としての届け出だけで、使用者が免許を持たなくても使えるというような、かなり緩和されているようでもあるので、無線については当然、おもちゃみたいなやつで地域で頑張んなさいではなくて、ある程度のものが出ていますので、そういったものに対する補助金とかいうのも、ちょっと考えていただきたい。

SNSでつながるという状況ばかりではなくて、実際に防災リーダーが動くとなればトランシーバーが絶対要るんですね。だから、今、鶴見区としては、地域で啓発のために防災訓練をやっていくということまでができたわけですから、その上に、そ

れを生かせる訓練ということで、物やソフトの提供ということも、やっぱり区としてはやるタイミングにあるんじゃないかなと思います。

○萩副区長 12地域同じ日にやっちゃう。

○宗宮部会長 区役所が混乱します。

○萩副区長 いやでも実際はね。

○宗宮部会長 昔、庁舎内でも訓練をされてましたよね。何かちょっと区長はご不満だったみたいで、庁内での動きがもう一つだったとかいうような話も漏れ聞いたりしましたけれども。

○植田委員 北区のこのチラシには、一般の方にも今のうちから呼びかけて、消火とか救助、救護活動の被害軽減の活動及び被害状況の伝達をしてくれる人をお願いしたり、フォークリフトやトラック、通信機器、資機材の提供とか、労務、応急手当、医療、介護、IT、機械操作、通訳などの専門技術の提供ができる人を募ったり、防災訓練など減災活動への、これは日々の活動ですよ。

食品、ここちょっと僕も気になってたんですけども、飲料水、食料品、生活用品などの被災者への無償提供または優先販売をしてくれる人がいたら、すごくいいなと。そういう商売をされている方で、もうそういうときは使ってくれと出してくださる方がいらっしゃったらいいなと。

あと、さっきもありました駐車場とか備蓄品の物資の倉庫、客室一時避難のスペースなどの施設の開放、またさっきもありましたインターネットなどの広告媒体を通した区民への呼びかけの協力とか、そのほか災害対策に必要な協力を、北区の区役所は区民の方に求めているみたい。

○秋山地域活動支援課長代理 鶴見区の場合、個人という形ではまだちょっとできてはおりませんが、企業体といたしましては、災害時の協力ということで、おっしゃっておられましたような、例えば飲食、飲料水とか、いざというときの避難場所として事業所さんの一部をお貸しいただけるとか、そういう形での企業登録制度はさせて

いただいております、福祉施設的なところも含めまして、平成27年現在で、51社の登録をいただいているところです。

○宗宮部会長 あと、防災の対応で先ほどの水害の問題なんですけれども、榎本でやり出してから町会長の意識もかなり進んできて、集中豪雨があると、工営所で土のうの配給がしてもらえるんやということで、町会長がみずから走り回るということがもう既にできているというのも、榎本で防災訓練を長年やってきた一つの成果だろうと思うんですよね。そういう防災の対応として、行政が用意しているメニューを広報で一々出すということもなかなか難しいかもわかりませんが、防災訓練を12地域でやっているという、そういうチャンスを区の広報としてどんどん生かしていくことは、ぜひ積極的にやってもらいたいというのと、何とかそうならないように苦労しているんですけれども、マンネリ化ですね。訓練というのは継続化すること自体が目的ですから、継続していくことで、マンネリになってもそれは訓練なんだから、そういうものなんだということなんですけれども、やはりそうならない工夫をどういうふうにしていくのかということについても、各地域、四苦八苦いろいろ考えておられるだろうと思いますので、そのことに対する区のサポートも必要かなと思います。

それから、先ほど出ていましたつるみんピックですね、僕も毎年見に行くんですけれども、防災リーダーだけの取組みになっているのが物すごくもったいないなと。区の防災リーダーの訓練にしても、一般参加者の観戦ができるような、連合対抗というようなあたりにもうちょっと重点を置いて、応援ができるような仕組みができれば、防災リーダーの方々の励みにもなるし、河村杯とか出してもらったら一番いいのではないかな、何かそういうのもあってもいいのではないかなと。

○河村区長 賞状は出させていただいています。

○宗宮部会長 日ごろの訓練の成果が競われるということなんですけれども、採点の早けりゃいいというものでもないし、なかなか難しいだろうと思うのですが、前回、水の館に見に行きましたが、競技の内容とか採点についてもう少し工夫がいるような感

じは、見学者として思いました。でも、もったいないですよ。一般の方は全く知らないですもん。

○小谷地域活動支援担当係長 去年は選挙の関係でできなくて、一昨年が初めてでして、試行錯誤の中で、ちょっとやってみようかということで、今年は11月29日に横堤小学校でやるのですが、その際には、1回目の実施を反省しまして、消防に厳密に審査をしていただくということで、今、消防のほうと詰めております。

例えば、競技の中にロープ結索があるのですが、一つでもできなかつたら次に進めないというような形で、厳密に審査をしてもらおうと。あとは、減点方式で、消防のそれぞれに審査をしてもらうということで、今、詰めているところですので、第1回目よりは引き締まったつるみんピックになるのではないかと。

○宗宮部会長 いやいや十分引き締まってましたよ。一昨年。

○萩副区長 賞状出したら。

○小谷地域活動支援担当係長 はい、区長名で出すように準備したいと思います。

○山下副部会長 ボランティアとして防災リーダーをやっておられるということ、やっぱり前面に出したほうがいいのかと思いますね。地域のボランティアの人ですよ、そういう人が、ふだん訓練してこういうことをやってますよという、それはすごい。

やっぱり宣伝じゃないですけども、本当に知らない人がたくさんいると思うので、鶴見区ってこんなところですよというふうに宣伝していかないといけないのかなと思いますね。手伝えることは手伝おうかなと1人でも思っただけいたら、それはそれでメリットとして出てくるかなと思います。

○田中（泰）委員 前回のつるみんピックでは、中で競技を競って、外でいろんなブースがありましたね。あれが同時ですので、中で競技に出た者は全然見にいけなかったんです。今回はどうなってますか。

○小谷地域活動支援担当係長 今回は小学校の校庭ですので、半々といえますか、

ブースもあり、つるみんピックの会場がありということで、校庭で一体型という形で
させていただこうと。

○田中（泰）委員 やっぱり出る者は見られない。

○小谷地域活動支援担当係長 競技に参加しないときに、ちょろっと見ていただく
とか、そのあたりはちょっと考えるところもあるんですけど。

○田中（泰）委員 ちょっと残念やったかなと前回思ったので。

○小谷地域活動支援担当係長 ある程度、区震災訓練、ブースの時間帯も伸ばそう
といろいろ考えたんですが、そこも関係機関の協力というところで成り立ってますの
で。

○田中（泰）委員 だから、出ない人を集めていってもらってということにしたら
いいですね。あの競技は8人から15人ぐらいですね。

○小谷地域活動支援担当係長 そうですね、最低8名はお願いしますと。

○田中（泰）委員 1人1回となると15名。

○小谷地域活動支援担当係長 そうですね。

○田中（泰）委員 防災リーダーはもっとたくさんいますので、皆参加したらいい
わけですね。

○小谷地域活動支援担当係長 そうですね。やっぱり一番いいのは、地域の防災リ
ーダーさんが全員、出なくても参加していただきたいというのが私どもの思いです。

○田中（泰）委員 はい、地域でそう言うっておきますので。

○宗宮部会長 榎本では、要援護者登録の名簿チェックから防災訓練につなげてい
くというところで、元の防災訓練が始まったんですけど、今、見守りネットでした
っけ、力を入れるということで、要援護者を超えた取組みになっていくのではないかと
思っているんですけども、そういった取組みと名簿は更新していくということと、
実際にそういった見守り対象の人を、災害のあったときにどう対応していくのかを折
り込んでいくということをやっていけば、種目のマンネリ化とか防災訓練のパターン

化というようなことではなくて、訓練を1回やることによって、そののところにスポットを当てていくということも可能だと思いますので、そこは縦割りではなく横割りにぜひしてもらいたいと思います。

ということで三つ目までいったんですが、すいません、トータルで戻って。

○秋山地域活動支援課長代理　　すいません、私が続けてしゃべればよかったんですけど、もうひとつ、資料2ということをつけておりますので。

○宗宮部会長　　ごめんなさい、はいはい。

○秋山地域活動支援課長代理　　ごめんなさい、私がちょっと。

○宗宮部会長　　その話をしようと思って、資料2の防犯カメラの話、これ落としてると思って。

○秋山地域活動支援課長代理　　資料2で1枚つけさせていただいておりますが、一番後ろです。

これまでの部会、全体会における主な意見ということでまとめさせていただいておりますが、3点挙げさせていただいております、1点目は自転車マナーについてということで、主な意見としまして、6月から取り締まりがきつくなっているけれども、学生等まだまだ自転車マナーが悪いということと、自転車保険の未加入者も多いというご意見がありました。

区役所といたしましては、先ほどいただきましたご意見も含めまして、各世代層に対しまして、効果的な啓発、また警察とも相談をしながら、今後また、より効果的な啓発に取り組んでまいりたいと思っております。

あと、防犯カメラについて2点挙げさせていただいておりますが、まず1点ですが、各地域に2台ずつ均等割で設置しておりますけれども、世帯や面積も考慮してはどうかというご意見をいただいております。

平成27年度ですが、まず区役所の回答といたしまして、地域の実情に応じた配置になるよう検討していきたいと考えておりまして、今年度は24台設置を考えており

ますが、一応2台ずつということでの希望調査をさせていただいた中で、26年度から防犯カメラは区のほうでの直接の設置ということに変わっておりますが、2年目ということの中でも、地域の防犯カメラに対してのご意見は濃淡が出てきておりました、実際、今回ゼロという地域も出てきておりますので、2台ずつというお話をしておりましたが、今回、地域実情に応じまして、そこは増をさせていただいたりということでの対応をさせていただこうと思っております。

平成28年度に向けましては、今年度のご希望をいただきました台数をベースに、30台と増設を考えております。

次のもう1点の防犯カメラについて、街頭犯罪の抑止効果があるので、積極的に設置を検討してほしいというご意見もいただいております。これにつきましては、これまでいろいろな部局での補助金制度も含めまして、大阪市では防犯カメラが設置されてきているところなんですけれども、その設置状況と街頭犯罪の発生状況をもう少し検討させていただきながら、より効果的な場所への設置と台数について検討していかなければならないと考えておりますが、この中で平成28年度以降、どういうふうに設置をしていくかというのも検討の中で考えていかなければいけないと思っております。

今、地域要望ということで、実際にお伺いをしながら、できるだけそこに即した形での設置を考えておりますが、街頭犯罪の発生状況と検証を進める中でいきますと、もしかしたら、例えば警察との直接の意見交換もしながらで、より効果のあるところが変わってくるかもしれないと思っております。そのときに、限られた台数の中で、どういうふうに設置をしていくのが地域の防犯対策で本当に効果的になるのかというところは、ちょっと考えていかなければいけないと悩んでいるところです。

○宗宮部会長 4-1-1の防犯カメラ設置30台という冒頭の話があって、それを飛ばしてしまったなと思ってちょっと焦っていたんですけども、自転車マナーについては冒頭のところで結構話し合うことはできたんですが、防犯カメラについて議

論を飛ばしてしまっていますので、今お話あった内容で、ちょっと話ししたいと思えますけれどもいかがですか。

また僕から口火を切りますけれども、今おっしゃった内容ですが、榎本は防犯カメラの台数でいうと、放出駅前とか商店街等も比較的多いと思います。ただ、そのいずれも、商店街のポールだとか工場だとか、民地の中に設置するというので、設置や管理にかかわって結構苦労しているというのが実情です。

そういうことからすると、大阪市としてあるポールに何で大阪市の補助金を受けた防犯カメラが取り付けられないのかというのが、うちの地域の中で、常におかしな話やなと思っていることがありますして、防犯カメラ自体はなければならぬに越したことはないけれども、今の状況からすれば、やっぱり必要なものと僕は認識しています。ないに越したことはないんだけど、なしという状況に今、我々のまちがなっていないというところで、やっぱり設置していかざるを得ないと私自身は思っているんですけども、そのあたりで、大阪市全体の防犯カメラにかかわる認識というか位置づけが、ちょっと不十分なのではないかと。それで、増設していきますよということになれば、地域の民地であるとか民間の施設であるとか、そこへの負担がより大きくなると。

商店街も力なくしていますから、ポールも徐々に減ってきたり、街灯自体も町会の負担にしてほしいと商店街が言ってくるという方向にありますので、商店街のポールに防犯カメラということが、これから先、必ずしも簡単に進まないというのも現実の姿ではないかと思えますので、増設大いに結構、よそが2台要らないのだったら、それ榎本に頂戴というのは僕の感覚なんですけれども、ただ、大阪市としてももう少し整理すべき問題あるのではないかなと思います。

○濱口地域活動支援課長　今、部会長おっしゃっていただいた、そもそも民地というよりも、補助金が入っている事業でもありますので、公のポールでありますとか場所ですね、もっと言うなら、防犯効果の高いところに本来つけるべきというような問題意識が多く指摘されているという状況もありまして、この間、区役所としましても、

その意識のもと、区長会の部会等々にも働きかけを行って、24区それぞれに照会をかけまして、現状の問題点を課題整理したうえで大阪市に対して働きかけを行ってきましたが、監督部署である市民局の見解は、それぞれの実情に応じた個別事情があるので、統一見解を出すというよりも、ニア・イズ・ベターの中での対応をされたいとの考え方を示しております。

ただ、我々としては、最近の寝屋川の女の子が連れ去られたとか、いろんなところでいろんな犯罪が生まれる中での防犯カメラの必要性は、誰もが当然、認識している部分でして、設置に関してはやはり、地域がおのこの設置するよりは、ある程度は公設置といいますか、公の部分として設置すべきではないかという現場実態も当然あるというようなところで、いろんな部局に対して働きかけを行っている最中です。

おっしゃっている設置場所でありますとか、そういうことについては、わざわざ公のところを避けて、民地に設置するのが基本というのもおかしい話だと思いますので、その分の調整を行政内部で、いろんなところに働きかけながらやっているというのが現状なんですけれども、ちょっと遅々として進んでいません。

○宗宮部会長　　わずかな金額ですが、地活協として防犯カメラの電気代も負担しますからね。

○山下副部会長　　今のお話からいくと、契約自体は随意でされているということなんでしょうか。

○宗宮部会長　　カメラ購入ですか。

○山下副部会長　　はい。

○宗宮部会長　　うちで入れたときは、買うときは一応、比較はしていますけれども。

○山下副部会長　　ではなくて役所として。

○秋山地域活動支援課長代理　　購入の仕方ですか。

○山下副部会長　　購入の仕方、はい。

○秋山地域活動支援課長代理　　入札ですね。

○山下副部長 入札がかかっているんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 はい、入札かけてます。

○山下副部長 それはただ単に台数にかかわる部分だけの入札ですか。場所の提案型みたいな形での入札というのはされてないんですね。

○秋山地域活動支援課長代理 提案型ではないですね。

○山下副部長 ないですね。

○秋山地域活動支援課長代理 先に希望調査をさせていただいて、この場所でのということでの。

○山下副部長 場所を設定して。

○秋山地域活動支援課長代理 はい、物買いでの入札となって。

○山下副部長 物買いでの入札ですね。

○秋山地域活動支援課長代理 はい。

○山下副部長 今の話でいったら、提案型もちょっと考えたりしたんですが、非常に難しい部分もあるのかなと。誰がどうやって調査をするのかということもあるかと思うんですけれども、ひょっとしたら調査できるところもあるかもしれないですね。

どこに設置したら効果的ですよというのは、やっぱりプロですから、その辺のアドバイスもね。

○濱口地域活動支援課長 ただ、今のプロというのは、警察しかないと思うんですけれども、例えば警察と協議する。

○山下副部長 防犯屋さんのプロというものもありますよね。

○濱口地域活動支援課長 ああ、防犯屋さんのプロね。

○山下副部長 やっぱり民間の防犯カメラを設置する会社は、どこにつけたらいいというのはわかっているはずなので。

○萩副区長 防犯の機械を売っているだけなので。

○山下副部長 売っているだけなんですか。

○萩副区長 ええ。

○山下副部会長 提案型みたいなどころはないですかね。

○萩副区長 提案はちょっと難しいかもしれないですね。

○山下副部会長 今話聞いていたらね、何かそうやなどは思ったりするんですけどね。

○萩副区長 ここが効果的だと思っても、何らかの制約があってできない場合も多々あるでしょうから。

○山下副部会長 確かに難しいなどは思うんですけども。

○濱口地域活動支援課長 僕らが考える防犯のプロというのは、例えば警察の捜査部門だと思うんですね。どちらかといえば検挙を目的にした捜査部門がそういう防犯カメラがそれにあたると思います。

○山下副部会長 そこに引きずられると、実はひょっとしたら間違っているかもしれないね。

○濱口地域活動支援課長 間違っているとまでは言えませんが、僕らの目的はあくまでも犯人検挙ではないです。

○山下副部会長 防犯ですからね。

○濱口地域活動支援課長 そういう防犯というか、抑止力ですね。

○山下副部会長 ここにカメラがありますよという抑止力。

○宗宮部会長 それはダミーも含めて置いていますよね。

○濱口地域活動支援課長 誤解を恐れずに言えば、隠して、黙って置いておくのではなくて、防犯カメラがここにありますがよということをむしろ出したいと思っています。

○山下副部会長 以前、一遍話出たのは、そこにスポンサーをつけたら安くつくのではないかという話がありましたよね。その辺を絡めて、民間事業者の力を借りられるなら、役所でスポンサーを探すのは難しいと思いますから、入札をかけるときに、

スポンサー探してくれていいよ、そのかわり安くしてねとか、ワンセットでいろいろ考えたら、例えば余分に5台つけられますよとか、そういう話も出てくるのかなとか、トータルで費用が安くつきますよとか、より効果的に、より費用対効果が上がる設置方法も考えていけたらいいのかなと思いますね。

難しいので、即結果を求められないとは思いますが、やっぱりスポンサーを探すというのは、かなりいいとは思いますが。

○濱口地域活動支援課長 今おっしゃっているのは、区の予算100%でやるのではなくて、ある程度民間のスポンサーも考えてみてはというご提案ですね。

○山下副部長 だから、スポンサー見つけてきましたから、あと4台余分につけられますという提案が民間からあがってきて、それが入札に反映されるとかいうふうな、難しいですが、その費用の取り決めで入札をかけるのか、台数の取り決めで入札をかけるのか、またこれで変わってきますね。費用で何台つけられるのか、ただ、何台つけるためには幾らでいきますよとか、その基本的な考え方もいろいろあると思うんですが。

○宗宮部長 今、区役所のやっている仕事としては、24カ所をポイントとして、地域と協議して設定して、そこに設置するというので、物買いをして設置までということ、設置した後は地域で管理してくださいという、そういうことですよね。

今、山下委員から出ているのは、もう少しトータルに抑止ということ言えば、基本的な戦略の中で、防犯カメラの効果的な使い方をもう少し検討して、場当たりに数さえ増やせばいいという話ではなく、防犯カメラの効果的な使い方をもうちょっと考慮に入れたらどうかという、ちょっと僕も考えつかなかった話で、新鮮に聞こえますけれども。

○山下副部長 スポンサーを見つけられたら、費用も本当に安くつくでしょうしね。

○田中（泰）委員 初歩的な質問をさせていただいていいですか。

防犯カメラ設置に関する質問なんですけれど、ある町会長がうちの市営住宅でして、市営住宅に隣接する公園で、子どもが夜とかたくさん集まっているから、そこにつけてほしいという申し出がありましたので、防犯カメラ設置が各地域に今年2台ですよ。だから、そこに1つお願いしたんですが、設置していただくのに書類とかが何かややこしいんですか。

○秋山地域活動支援課長代理 公園内につけるのでしたか。

○田中（泰）委員 茨田北なんですけどね、1台もうお返ししたみたいですね。

○秋山地域活動支援課長代理 ああ。

○田中（泰）委員 2カ所お願いしたんですが、1つ。

○秋山地域活動支援課長代理 ~~はい、思い出しました。市営住宅ということで、都市整備局のほうから、ちょうどその入り口付近につけますので、その市営住宅の住民の方全員の合意をとってくれということでは言われました。~~

~~それで、書類的にもそういうのがきっちり出てきてまして、お伝えをしたところ、それは非常に難しいと。~~（※取消し線部 最終頁に修正記事あり）

○田中（泰）委員 なるほどね。ああそういうことですか。詳細聞いてなかったんですけれどもね、もったいないことだなと思って、ああそうか、それが大変ですね。そういうこともあるんですね。それで急にほかといってもなかったの。

○秋山地域活動支援課長代理 そうですね、はい。

○田中（泰）委員 もったいないことを。

○秋山地域活動支援課長代理 申しわけないんですけれども。

○宗宮部会長 抑止効果とか犯罪検挙ということで、今、濱口課長が言っているように、防犯カメラの効果はみんなが認識するところですが、やはり一方で、個人情報の問題も大事にしなければならないということで、これが本当の犯罪抑止力なのかどうかと言え、ひたたくりに遭ってしまった被害はカメラ自体で回復しませんからね。カメラであふれるということが、いいことなのかどうかということも考えながら、や

っぱりやむを得ずつけていくというあたりで、適当なところでバランスをとりながら了解と設置を進めていくということに、結果的にはなるんだろうなと思いながら、やっぱり一方で、犯罪の少ないまちということからすると、ひったくりする人が何が一番嫌かと言え、挨拶するまちだとかきれいなまちだとかそういうところで、挨拶するまちでは泥棒しにくいと言っておるわけですからね。そういったことが、基本的な抑止力にはなっていくのだろうとは思いますがね。

ただ、今言っているような内容については、1件ずつ全員の合意書となったら、なかなか進みませんよね。本当に必要なら、やっぱり区として必要なんだという、一定線引きができるところでやっていくということも、話をぐるぐる回すだけではなくて、ある程度必要なんだというところで、線引きができるような仕組みは必要かもしれませんね。いつまでも全員の合意が必要なんだと言っていたら、それで犯罪抑止力の実際の改善につながらなければ、何をやっているかわからないということにもなりますものね。

西口さん何か。

○西口委員 防犯カメラに関しては、私はいつも思うんですけども、結局、普通の家につけるのには物すごく抵抗があるんですよね。電気代云々じゃなくて、壁が穴あくとか。

○宗宮部会長 仕返しされるんじゃないかとか。

○西口委員 壁が穴あくとか。それと、先ほど言われたように、うちがやられると、何かの被害に遭いそうやという声が物すごく高くて、NTT柱にしる電柱にしる、もうちょっと手続を簡略化しないと、3カ月、6カ月かかるようだったら間に合わないんじゃないかということも考えられましてね。確かに、予算的に年度末までにやればいいじゃないかというおざなりなやり方よりも、即一遍に業者がかかったほうが安くつく、それはそれでわかるんですよ。けれども、そういうところはやっぱりまめに動いていただいて、設置すると決まったところから順次やっていただいたほうが、NT

Tだと3カ月かかる、もしくは関電だったら6カ月かかるという状況をもっと改善していただきたいなど。家につけてほしい、そこを守りたいがためにつけてほしいということはわかるけれども、うちにはつけんといてくれということが物すごく多いのでね。手続上、もうちょっと簡略化されて早くつけないと。先ほども、いわばプライバシーのものだとは思いますが、全員というのはもう本当に、ほとんどつかないんじゃないかと思うんですね。

例えば80%以上とか70%以上とか、そういう同意が取れたらつけられますよという緩和というんですかね。そういうことがやっぱり必要だと思うんですけれどね。何せ言ってから物すごく長い。それが私の実感です。

○秋山地域活動支援課長代理　そこも含めて、濱口課長のおっしゃったように、関係機関への働きかけという部分にはなってくるんですけれども、私も実際、関電に直接行かせてもらいましたけれども、この情勢の中でのその動きは、理解は当然されているんですけれども、そこと手続の問題というのは、なかなかご理解いただけないとか難しいところがあるようで、一定そういう期間はかかってしまうというようなところで。

ただ、今年度につきましては、関電、NTT柱につける方向で、話は進めさせていただいております。

○西口委員　街灯をつけるのも散々走りまわりましたから。街灯1個つけるのに、関西電力行って、写真撮ってここに付けるんですと、その番号も撮って、かなり走り回りましたけどね。

○宗宮部会長　今出ている話は、ちょっと重みとして受けとめてほしいのですが、今、各地域とも取組みしているんですよ。地域住民の負担で取組みをするということでは、もう十分にしていると。学校の周辺にもつけたい、駅の周辺にもつけたいということで、今、西口委員が言った内容は丸々、榎本でも出ている話ですね。民間でとにかくカメラを買う予算さえ確保できたらいいとか、そんな簡単には思ってお

られないでしょうが、やっぱりそのところを大阪市として判断ができる仕組みをつくってもらわないと、みんなの合意があれば何とかなるということで、合意がなかったから無理だったということではだめなのではないかという感じはしますね。

ちょっとすみません、僕が一番しゃべっているということもありますし、進め方がまずくて、もう9時を回ってしまっているという非常に申しわけない状況なんですけれども、あと何か、これを言い忘れたということがあれば出していただいて、あとちょっとまとめていきたいなと思うんですけれども。

それでは、本当に長時間すみません、まだまだ出そうなんですけれども、今日は時間ということで、これで区切らせていただきたいと思います。

新たな観点とかこういう考え方をもうちょっと進めたらどうかということで、今日は幾つかの示唆が出たと思いますので、この部会ではこういった形で、区役所の施策に対するチェックだとか点検、意見具申ということももちろんしていきますけれども、委員各自の経験に基づいたこういった意見の交流というのを、ぜひ積極的にしながら、区のほうに聞いていただくということも、この部会としては積極的にやっていきたいと思いますので、本日のような自由活発な議論をぜひ続けていきたいと思います。

本当に長時間ありがとうございました。今日は議員の皆さんは来られていないようなので、最後、区役所のほうにお返ししたいと思います。

区長から。

○河村区長 どうも長時間ありがとうございました。防災にせよ、安全なまちづくりにせよ、防犯にせよ、非常に区民の方々、また我々にとっても身近な問題で、今日出た課題というのは、本当に示唆に富むものがいっぱいあったと思いますので、検討する中で、参考にさせていただければと思っております。

たまたま、昨日、家に帰ったら、僕の住んでいる某区某連合の防災訓練が11月にあるというチラシが入ってまして、今まではあまりそういうことに関心はなかったんですけれども、それはぜひ行って見て、いいものがあれば持って帰って、多分ないと

思うんですけれども、多分鶴見区のほうがきっと立派だと思うんですけれども、そういうことも一度、自分の問題として体験してみて、またこんなあったでというようなご紹介もできたらと思っております。本当に今日は長時間いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。

○宗宮部会長　　ありがとうございます。

あと、区のほうから連絡事項ありましたら。

○濱口地域活動支援課長　　次回の区政会議の予定でございます。12月ごろに全体会を開催して、平成28年度の運営方針案について、ほかの部会所管の課題も含めましてご意見を賜りたいと思っております。

日程については、また改めて調整させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

事務連絡は以上です。

○宗宮部会長　　それでは、本当に長時間、9時過ぎてまで本当に申しわけありませんでした。本日はこれで部会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

閉会　21時10分

(修正記事)

市営住宅ということで、都市整備局へ工作物設置等承認申請書の提出が必要となりますが、その中の誓約事項における、設置後の対応、苦情への対応や場合によっては現状復帰、移設などの費用を地域が見なければいけないことについて、町会長として他の役員へ同意を求めがたいということで辞退をされました。鶴見区としては、支給要綱の中で設置は区が行い、その後の維持管理は地域でお願いをしており、改めて説明をさせていただきましたが、申請書の提出はしがたく、辞退するとのお答えでした。